

無痛分娩看護手順

〈目的〉

陣痛痛みがコントロール出来、かつ安全無痛分娩を提供出来る

〈妊娠中における看護〉

- 1 妊婦健診、助産師外来を通じて個別性のある指導を行う。
- 2 無痛分娩希望する患者には、医師より無痛分娩における情報を提供し、不安の軽減に努める。

〈入院当日における看護〉

(1) 入院前

- ① カルテより情報収集を行う。
- ② 無痛分娩に関する必要物品を確認する。
- ③ 心電図モニター、救急カートなど必要物品を準備する。

(2) 入院時

- ① 母子手帳。同意書を受け取る。
- ② お産着に更衣を済ませたら、バイタルを測定しNSTモニター、心電図モニターを装着する。
- ③ ルートをキープしラクテック500mlを開始する。
- ④ 医師の診察がある場合は診察介助をする。

(3) 硬膜外麻酔介助 ※ チュービング手順参照

- ① 硬膜外麻酔セットを準備し、介助をする。
- ② 硬膜外麻酔の処置終了後、医師によりテストドーズを行ったら、副作用がないか確認する。
- ③ コールドチェックを行う。

(4) 分娩進行中

- ① NSTモニターを継続的に装着する。
- ② 必要に応じて促進剤を使用し、促進剤の量を段階的に調整する。
- ③ 適宜、診察及び導尿を行う。
- ④ 麻酔効果を評価し、痛みに応じて麻酔薬を追加していく。
- ⑤ 硬膜外カテーテルの刺入部は適宜確認する。
- ⑥ 状況に応じて、呼吸方法や努責の練習を行う。

(5) 分娩時

- ① 分娩の準備を行う。
- ② 陣痛に合わせて努責をかけていく。陣痛のタイミングが分からない場合はスタッフがサポートする。
- ③ 必要時、吸引分娩やクリステレル圧出法を行うこともある。

(6) 分娩後

- ① 母児共に異常がなければ、産後2時間一緒に過ごすことができる。
- ② 母体のバイタルサインや子宮復古の状況、出血量などを確認する。基本は分娩後1時間値、2時間値で確認だが、異常時は頻回に行う。異常時は医師に報告し適切な処置を行う。
- ③ 分娩後2時間が経過し、異常がなければ居室に帰室となる。